

# ふれあいボランティア活動 感想文集



令和6年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

## ふれあいボランティアパスポート事業

### 令和6年度ふれあいボランティア活動感想文集発行にあたって

さわやか青少年センター（以下SSCという）は、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する認定NPO法人です。

SSCでは、地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（当センターが提唱する学校教育や社会教育の「ボランティア体験学習」の中で人々とふれあって行うボランティア活動のこと）は、青少年が『人間力』を育むために最適な取組の一つであると考えています。

その児童生徒の「ボランティア体験学習」のきっかけ（動機付け）を提供し、支援するツールとして、SSCでは「ふれあいボランティアパスポート（以下、FVPという）」を学校や団体に無償で提供しています。

「ふれあいボランティア活動感想文」（以下、感想文という）の募集は、児童生徒の皆さんに1年を通じてFVPを活用した「ボランティア体験学習」に取り組んだ後に、感想文を書くことでその活動を振り返り、自らの学びや成長、今後に向けての意思を確認する機会としていただくことを目的として実施しています。当事業は、当法人設立時より今年度で13年目を迎え、感想文集も13冊目の発行となりました。

この感想文集は、これまで多くの児童生徒が取り組んできた「ボランティア体験学習」の取組に対するそれぞれの思いを受賞者に代表していただく形でご紹介いたしております。

コロナ禍を経て、令和6年度は一般の経済・社会活動も平常と言える状況になりましたが、学校教育では、教科・授業時間数の増加や行事の復活・増加が見られ、児童・生徒も時間に追われていると聞いています。そのため、地域社会との交流も難しい状況が続いているようです。

そのようななかでも、FVPを活用した「ボランティア体験学習」に取り組んでいる児童・生徒の感想文からは、自分の身近な生活のなかで困っていることに気づき、考え、問題を課題に変えてよりよくするよう自ら行動する姿がいきいきと伝わってきます。まさに、自助力、共助力、つまり、生きる力の「人間力」を自ら育んでいることを感じ取れるものばかりでした。

FVP参加校、団体の教員、指導者の皆様には、困難な状況の中でFVPを活用した「ボランティア体験学習」を継続いただき、また、保護者や地域の皆様にも、ご理解、ご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。

この感想文集を読まれた皆様におかれましては、近隣の学校、団体の皆様にもご紹介いただきまして、FVPを活用した「ボランティア体験学習」の輪を広げていただければ幸いです。

それでは、令和6年度の感想文、および選考委員の講評をお読みいただきたいと思えます。

令和7年3月1日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

◎ふれあいボランティアパスポート参加校一覧（巻末参照）  
◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介しています。  
ダウンロードできます。（URL：<https://www.soc-tjpo.or.jp>）

### 「ふれあいボランティア感想文」

応募総数71点（小学校3校・2団体37点、中学校2校3点、  
高等学校2校31点）

### ○受賞者

#### 【ふれあいボランティア活動感想文大賞】（2人）

東京都荒川区立第六瑞光小学校5年

梶原 悠里さん  
かじわら ゆり

東京都立六本木高等学校2年

山田 彩加さん  
やまだ あやか

#### 【小学生賞】（9人）

青森県弘前市西部児童センター（小学校1年）

小枝 杏奈さん  
こえだ あんな

青森県弘前市岩木児童センター（小学校2年）

阿部 夕陽さん  
あべ ゆうひ

青森県弘前市岩木児童センター（小学校2年）

前田 優志さん  
まえだ ゆうし

青森県弘前市西部児童センター（小学校3年）

館山 陽菜さん  
たてやま ひな

千葉県栄町立竜角寺台小学校4年

金井 夢結さん  
かない ゆづ

青森県弘前市西部児童センター（小学校4年）

小枝 栞奈さん  
こえだ かなな

青森県弘前市西部児童センター（小学校4年）

寺嶋 彩夏さん  
てらしま あやな

青森県弘前市岩木児童センター（小学校5年）

平澤 莉緒さん  
ひらさわ りお

千葉県栄町立竜角寺台小学校6年

寺田 健次郎さん  
てらた けんじろう

青森県弘前市岩木児童センター（小学校6年）

三上 和真さん  
みかみ かずま

#### 【中学生賞】（1人）

岩手県盛岡市立厨川中学校2年

河嶋 杏月さん  
かわしま あづき

#### 【高校生賞】（3人）

東京都立六本木高等学校3年

西田 暖さん  
にしだ のん

東京都立六本木高等学校3年

野口 秋波さん  
のぐち しゅうは

東京都立稔ヶ丘高等学校4年

高橋 はるさん  
たかはし

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

公益社団法人全国公民会連合会副会長、アナウンサー、  
エッセイスト  
村松 真貴子氏

選考委員

NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事長、  
さわやか青少年センター理事  
奥山 千鶴子氏

新渡戸文化学園理事長、

放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩 国泰氏

元日本教育新聞社取締役編集局長、

公益財団法人理想教育財団理事  
矢吹 正徳氏

◆講評

選考委員長

はじめの一步と継続する力

公益社団法人全国公民会連合会副会長、アナウンサー、

エッセイスト  
村松 真貴子

今回大賞をお二人選ばせていただきました。

まず、地域猫のボランティアを続けている山田彩加さん。小中高と続けているだけあってボランティアを通じて知り合った一人暮らしの高齢者の相談に耳を傾け、スマホの使い方を教えたり看病したりしている姿に心打た

れました。長く続けているからこそ人の縁も広がり、それが地域づくりにもつながっていくのですね。関わりあって生きていくことの尊さを教えてくれます。

また梶原悠里さん。ゴミ拾いをする気はなかったのに、おばあさんがゴミを拾い始めるといいう善い行いをしてくれたので、その波に乗ることができたと。今度は自分が善い行いを始める側になりたいと書いてくれました。

ボランティアの一步目はだれでも不安なものです。人見知りだと余計に負担に感じるでしょう。でも実際に活動してみたら、そんな不安が吹き飛んで楽しさやうれしさで心が満たされた、そんな心境を丁寧に書いてくれた作文が多くありました。

ダンスを観ていたおじいちゃんがペットボトルのマイクで「北酒場」を熱唱してくれたなんて、お子さんたちも嬉しかったことでしょう。ご家族の「よく頑張ったね」という一言で、次も頑張ろうと思えるのですね。夕飯がいつもよりおいしく感じたという言葉に、ほっこりとした気分になりました。

始めはどきどきしながらのボランティアであっても、続けることによってさらに大きな喜びや学びにつながっていきます。「ボランティアはじめの一步」と「ボランティア継続中」それぞれの視点で書かれた作文を、大賞に選ばせていただきました。

## 選考委員

自分の心に効くボランティア

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長、

さわやか青少年センター理事

奥山 千鶴子

皆さんの作文を読んで、一番に思ったのは、「ボランティアをする、自分の心に効くんだね」ということでした。自分が取り組んだことを家族に話してみたら、みんなに頑張ったねと言われて、夜ご飯がおいしくなったという感想に「そうだよね」とうなずきました。うれしい気持ちになると、またボランティア活動が楽しみになります。

でも、褒められることは最初恥ずかしいなという気持ちだったという素直な気持ちを書いてくれた人がいました。感謝したり、感謝されたりする経験、「ありがとう」を言ったり言われたりする経験が普段の生活の中にたくさんあるといいですね。ボランティアに踏み出せない人が多い理由の一つが、素直な気持ちを表現しても受け止めてもらえないかもしれないという不安が根底にあるように思います。恥ずかしさを通り越して素直な気持ちを表しても安心できる、それを否定しない社会、人と喜びでつながり合えるような社会であってほしいと思います。繰り返し活動を続けている中で、恥ずかしいがうれしに変わっていった良かったです。受け止める周りの環境にも感謝したい気持ちになりました。

自分の心に効いたボランティア活動は、みんなのため

だけでなく、苦手を克服したり視野や価値観を広げられたりして自分のためになっていると気づきにつながっていました。自分ごとになったら、日々の生活の中に他にもボランティアできることがあるとか、どうしたらもっと協力しあって実現できるかなど、どんどん豊かな発想につながっているようでした。そしてボランティア活動を通じて、身近な自然だけでなく郷土の自然について考え、福祉や動物愛護などの社会課題にまで広がっていくことが皆さんの作文からわかりました。2030年度までに達成しようとしている「持続可能な開発目標(SDGs)」にもつながる小さなアクションを是非ボランティア活動を通じて自分ごとにしてほしいと願っています。

ボランティアの中にある本質

新渡戸文化学園理事長、

放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩 国泰

今年も小学生から高校生にいたるまでの多くの皆さんが頑張っている姿を読ませていただき、勇気をもらいました。様々な活動を読んでいて、皆さんの心が動いたり、夢中になっていたりする姿を感じました。

そして、どうしてこのように頑張れるのだろうか？と考えてみて、いくつかのことが思い浮かびました。

頑張れた理由の1つは「自分で選んだ」からではないかと思いました。ボランティアをする、どんな種類のボランティアをやるか、そうしたものを自分で選んだので

意欲が湧いているのではないでしょうか。感想文の中にも「決意」「行動」といった言葉がありました。

もう1つは「自分で工夫した」ということを思いました。最初からうまくいったことばかりではないですが、それぞれに試行錯誤をして、その工夫が実って目的を達成している喜びを文章の中から感じました。

そして最後に一番大切だった理由は「誰かのためになつた」ということだと思いました。「自分を元気づける一番良い方法は、誰かを元気づけてあげることだ」。これは「トム・ソーヤの冒険」という有名な本を書いたマーク・トウェインさんの言葉として伝わっています。まさに今回の皆さんの姿と重なります。

こうした3つの理由はまさに私たちの生きがいそのものに思えます。ボランティアだけではない人の喜びの源泉なのではないでしょうか。そんな本質に触れた皆さんのこれからの成長が本当に楽しみでです。

「瞬発力」と「持久力」、そして「柔軟な思考力」を大切に  
元日本教育新聞社取締役編集局長、

公益財団法人理想教育財団理事

矢吹 正徳

AIと教育の関わりが話題になってきました。そこで子どもの年齢に応じたボランティア活動は、とAIアシスタントに聞いてみました。

小学生なら公園などでゴミを拾う「地域清掃活動」、

高齢者交流する「施設訪問」、動物保護施設の支援」、中学生ではコミュニティに貢献する「地域イベントの手伝い」、食料品の仕分けや配布などの「フードバンクの支援」、「環境保護活動」、高校生なら地域の小・中学生に勉強を教える「教育支援活動」、「災害支援活動」、異文化理解や国際協力の重要性を学ぶ「国際ボランティア活動」と、学年が上がるにつれ、身近な所から、地域、そして災害地や海外へと活動範囲が広がっていく必要があると、AIアシスタントは考えたようです。

今回の応募作品にあった熱中症で具合の悪くなった年配の方を子どもたちが応急処置し、救急車を手配した様子を伝えてくれた作文からは目の前の出来事を瞬時に判断し、対応できる「瞬発力」の必要性を、また、地域猫の保護活動が続けるうち、関わる方々の課題に気付き、新たなボランティア活動に取り組んだ作文からは長く活動を続ける「持久力」の大切さをそれぞれ再認識させてくれました。共通するのは「柔軟な思考力」です。

みなさんがこうした「力」を大切にしつつ、「広い視野」を持ったボランティア活動にチャレンジしていくことを楽しみにしています。

## 受賞作品について

児童・生徒の原文に従って掲載しています。一部、誤字等の修正、改行を加えている箇所があります。顔写真については、本人、保護者の承諾を得て掲載しています。

## 【ふれあいボランティア活動感想文大賞】 いい行動の波

東京都荒川区立第六瑞光小学校

5年 梶原 悠里



私はふれあいボランティア活動を通して、良い行動を起こすのは簡単なことではないけれど、起こされた良い行動に乗るのは、とても簡単だと思いました。

私が高尾山に上った時、「もみじ台」という人気のあるお蕎麦屋さんで休業していたこともあり、お店の周りにはプラスチックごみや、ビニールごみが、たくさん落ちていました。私はそれを見て「嫌だな、汚いな」とは思っても、「ごみを拾おう」とは、全然思っていませんでした。行動する気もありませんでした。

ただ、山登りの本で読んだ、「山で、とつていいのは写真だけ、残していいのは思い出だけ」という標語を思い出し、なんだかいたたまれない気持ちになったのを覚えています。

その中で、一人のおばあさんが、「やれやれ」といった感じでごみを自分を持っていたごみ袋に、トングでごみ

を拾い、ポイポイといれていきました。すると、周りのおそらくはさつきまで見えて見ぬふりをしていたのであるう人たちが、少しずつ、おばあさんのごみ拾いに声を掛け、手伝いをしたり、自分からごみ拾いをしたりする人が増えてきました。自分たちのごみはもちろん、周りのごみを拾い、しつかりごみ箱に捨てることで、そのおばあさんのごみ拾いに参加しました。

私は、おばあさんのごみ拾いが始まるまで、周りの人のごみを拾う気なんて、まったくと言っていいほどありませんでした。ですが、おばあさんがごみを拾ういい行動を起こしてくれたから、その波に乗っていい行動をすることができました。

このような経験から、いい行動を起こしてくれる人があるなら、その行動に乗って、自分もいい行動をすることができるということを、学びました。そして、今度は自分がいい行動を始める側になりたいです。



【ふれあいボランティア活動感想文大賞

人のために、動物のために

東京都立六本木高等学校

2年 山田 彩加



私は、小中高と地域猫ボランティアをしてきました。

地域猫ボランティアとは野良（飼い主のいない）猫さん達をこれ以上増やさないために保護して女の子なら避妊手術を、男の子には去勢手術をして、地域の人達みんなが協力しながら、その猫さん達が生きていける環境を整え、ごはんや、トイレの始末などのお世話を行うボランティアです。このボランティアは勿論の事、命を預かるためとても大変な事が多いですが、やりがいや、嬉しさを感ずる事も少なくありません。例えば、今までごはんをあげようとすると威嚇して引っこ掻いてきた猫さんが懐いて撫でさせてくれたり、他にも数えきれない程あります。

「誰かがやらないと誰もやってくれない」

このボランティアを始めてから、他人事ではいけないと思うようになりました。

また、地域猫ボランティアをする中で知り合った高齢の方々が一人暮らしをしていて、大変だなと実感する事があると知り、少しでも不便を無くしたいと思ひ、色んなお手伝いをしました。スマホが分からない、けどお店へ行くのは大変、そんな方々のために地域猫の集まりでスマホ教室をひらき、分からない事や、操作方法を教え

ました。どうしても覚えられない方には、大きな字でメモを書いて渡し、分からない時にはこれを見るようにと伝えました。そして、病気にかかってしまつて家から出られない方は、ご家族が来られるまでの間、看病したり、他にも色々とお手伝いさせて頂きました。

お手伝いや、ボランティアをしていく中で私の夢は、人、動物が生きていくために不便だ、生きづらいと感じる事を少しでも減らしみんなが笑顔で「幸せ」に暮らせる社会を創っていく事だと分かりました。



## 【小学生賞】

たのしかったけいろうふれあいデー

青森県弘前市西部児童センター

1年 小枝 杏奈



9月21日、となりのずいふうえんで、けいろうふれあいデーがありました。

それは、ちいきのおじいちゃん、おばあちゃんをしようたいして、じどうセンターの子どもたちがうたやおどりをひろうする日です。

わたしは、一年生でよくわからなかったけれど、ダンスをおどることが大すきなので、いっしょうけんめいこう学年のおねえさんたちとれんしゅうをしました。

はじめに、おじいちゃん、おばあちゃんが見ているまえで、ダンスをおどりました。とってもドキドキしました。でも、おじいちゃん、おばあちゃんが手をたたいておうえんしてくれて、とってもうれい気もちになりました。

つぎは、みんなでキラキラのテープをもちながら、「きたさかば」のきよくをおどりました。おわると、「アンコール」「アンコール」というこえがきこえました。

もう一回「きたさかば」をおどりました。すると、一人のおじいちゃんがたつてきて、ペットボトルをマイクにしながらうたつてくれました。

「おもしろいおじいちゃんだなあ。」と、おもいました。



おうちにかえってから、きょうのことをおかあさんとおばあちゃんにはなしました。おかあさんとおばあちゃんが、「がんばったね。」と、ほめてくれました。よろこばんは、いつもよりおいしかったです。

ぼくの小さなボランティア

青森県弘前市岩木児童センター

小学校2年 阿部 夕陽



ある日、そつえんしたほいくえんに行き、ぼくの妹や弟が、おゆうぎ会のれんしゅうをしているところのおうえんをしました。ひさしぶりのほいくえんは、とてもなつかしく、おせわになった先生方ともお話ができて、とてもいい日になりました。

ちいきでやっている子どもしよくどうへあそびに行つたこともありました。ボランティアのみなさんが作つてくれたおりょうりをはこんだり、おはしをならべるおてつだいをしました。シチューがとてもおいしくてたくさなおかわりをしました。食べおわつたおさらをかたづけお手つだいもしました。

児童センターでかざりおわつたお花をついで、水にうかべ花手水を作つたこともよいたいけんです。花の色や大きさのくみ合わせを考えながら水にうかべるのがとても楽しく、むちゆうで作りました。ぼくの作つた花手水は、今もセンターのげんかんに



かざっています。

ぼくは、この一年を通して、小さくてもだれかのやくに立てるボランティアがたくさんあると思いました。お父さん、お母さんや学校、センターの先生にほめられたり、ありがたいと言われるとうれしい気もちになります。これからもだれかのために、小さなボランティアをたくさんしたいと思います。そしてそのかつどうをぼくも楽しみながらやりたいです。

## センターのめだか

青森県弘前市岩木児童センター

小学校2年 前田 優志



めだかをそだてることになり、一ばんさいしよに、ひょうぶさんが入ってくれました。

めだかをお世話するためめだかがかり十人をきめました。でも一っかい十人でやるとけんかになってしまいました。そこで、はん長ふくはん長をきめそのほか何曜日にお世話するのか十人のみんなど、話し合いました。

かかりみんなでおせわのし方をもう一どずかんでしらべたり、考えたりしました。そうしてずかんでしらすべたことや考えたりしたことを活かして、おせわをもう一どはじめると、月曜日から土曜日までうまくいきました。

すると小さなめだかもすくすく大きくなっていききました。だからいいちようしなんじゃないのかなあと思いました。ものすごく元気ですくすくそだっているけど、水そう

を見ていると何か足りないと思いました。ぼくは、その足りないものがなんなのかわかりませんでした。

水そうの中は川などとはまったく違って水草や、石ころがなにないことに気づいたので何かもって来たほうがいいのかなあと思いました。

お家にあるつかわなくなったアクアプランツをもってきたり、先生が石のかわりにビー玉をたくさん水そうの中に入れてくれたので川のようなふんいきとなり、いろいろじゅんびができました。

水そうの中はきれいでなんだかにぎやかになったのでめだかさんはきつと前よりもよろこんでくれているんだらうなと思いました。

めだかさんは毎日センターでぼくたちをむかえてくれるので、ぼくたちも元気になります。だからぼくたちめだかがかりはもつとおせわを力を合わせてがんばっていいこうと思います。



敬老ふれあいデー

青森県弘前市西部児童センター

小学校3年 館山 陽菜



9月21日、西部児童センターの児童30名でとなりの  
ずい風園へ行ってきました。

その日は、敬老ふれあいデーといって、地いきのおじ  
いちゃんおばあちゃんをお祝いする行事がありました。

私たちは、ダンスをひろうしたり、おじいちゃんとおば  
あちゃんとゲームをしたりしました。その中でも心にの  
こったことは、私たちが「北酒場」を歌っている時に、  
一人のおじいちゃんがペットボトルをマイクがわりにし  
て前にでてきてわたしたちといっしょに歌ってくれたこ  
とです。おもしろかったし、とてもうれしかったです。

まわりのおじいちゃんおばあちゃんもえが  
おだつたしセンターの先生もわらっています。

「自分たちがひろうした物で、周りの人  
たちがあつたかくなるんだなあ。」と感じ  
ました。

さいごに私たちがおりがみで作ったくす  
玉をおじいちゃん、おばあちゃんたちにプ  
レゼントしました。

となりのおばあちゃんが

「がんばって作ってくれたんだねえ。」  
とやさしい声で言ってくれました。



たつたひと言の言葉で、うれしい気もちになりました。  
はじめはきんちようしたけれど、おじいちゃんおばあ  
ちゃんのえがおが見れて、わたしの心もあつたかくなり  
ました。

みんなでボランティア

千葉県栄町立竜角寺台小学校

4年 金井 夢結



わたしたちは毎朝おち葉はきをしています。11月  
12月はとくに葉っぱが落ちてくるので道がおち葉だら  
けです。はじめは、先生におち葉はきしますかと聞かれ  
たので、はじめました。前は先生に言われてそうじしま  
したが、今はおち葉はきのために、六時半ぐらいに起き  
て自分からおち葉はきをやっています。

さいしょは、手が冷たくなるしほうが重いからいや  
だなあと思いましたが、毎日やることで、手が冷たくな  
るとか重いか気にならずにしているし友達との仲をふか  
められました。

しかもはじめたころは、四年生が四人ぐらいしかいま  
せんでした。でもだんだん七人になったり、五年生が五  
く六人ずつだってくれました。

その他に、下学年がおうえんしてくれたり、先生方に  
よくほめられます。私はとくにほめられるのが大好きな  
ので、とつてもうれいす。それに、やるにつれて、  
だんだん楽しくなっていきました。

よくおち葉が集まりすぎてみんなで「サツマイモパーティー」したいねーっと言いながらやっています。そしてだいが集まったら、荷車におち葉を乗せて中庭へ運んで友達と協力して「おち葉の山」をかたずけて、みんなで最後に「おち葉ダイブ」をします。いがいにおち葉はふわふわして気持ちいいです。これで朝の



「おち葉はき」ボランティアは終わりです。やりおわる学校に来たばかりのときはとても寒いにおち葉はきを終わった時にはもう体がポカポカでスツキリした気持ちで教室に帰れます。

このボランティア活動は、何より「みんなのため」「学校のため」そして特に「自分のため」になっているのです。ただ一つのボランティアで四つもいいことがあるなんてステキですよ。これからもつづけていきたいと思えます。

敬老ふれあいデー

青森県弘前市西部児童センター

小学校4年 小枝 葉奈



九月二十一日土曜日、となりの瑞風園で敬老ふれあいデーをしました。そこではまず、「ステップ」というテンポの速い曲でダンスメンバー十四人でおどりました。お

じいちゃんとおばあちゃんが手拍子をしておうえんしてくれました。つぎは、ゲームを二種類しました。風船バレーとじゃんけんバトンリレーです。おじいちゃんとおばあちゃんがすわっていて、大きな風船をたたくには力かげんがむずかしかつたけれど、みんなで笑って楽しくできてよかったです。



つぎは、私の大好きな細川たかしさんの「北酒場」をみんなで歌いながら、キラキラのテープを両手に持ってダンスをしました。

私たちがおどっていると、一人のおじいちゃんが出てきてペットボトルをマイクにみたてて、私たちといっしょに「北酒場」を大熱唱してくれました。

見ているおじいちゃんとおばあちゃんも体をゆらしながら手拍子をしてくれて、とても盛り上がりました。そして最後に、一年生の代表が九十九さいのおじいちゃんに、私たちがおりがみで作ったくす玉をプレゼントしました。

おじいちゃんとおばあちゃんをよるこぼせるために、夏休みから練習してきてよかったです。ボランティアとは、ごみ拾いだけだと思っていただけけれど、人の心も楽しませることができんだなあと、思いました。

来年も高学年としてボランティア活動を続けていきたいです。

## みんなの花

### 青森県弘前市西部児童センター

小学校4年 寺嶋 彩夏



五月十八日土曜日、私の通う児童センターで、初めて花だん作りをしました。

それは、一人一人役わり分担を決めて、「花を大事にさせたい」「大切にしたい」というみんなの心を一つに行いました。

植えた花の種類は、マリーゴールドや日々草など十三株を植えました。プランターに植える色合いや種類などたくさんのお話をみんなの意見を聞きながら、きれいに植えました。毎日毎日ていねいに水やりを行いました。

そして、ある日、プランターの中をのぞいてみると、ていねいにみんなで植えた花が、赤、ピンク、白、オレンジの色にとてもきれいにさきほこっていました。

けれども、センターのうら庭に植えたえだ豆は、毛虫が多く全て食べられてしまいました。みんなで協力して植えたえだ豆が毛虫のせいで腐ってしまい私はショックでした。

けれども、センターのみんなで協力した花が残っていて、良かったです。

そして、「この花は、私達みんながさかせた花なのかもしれない」と思いました。理由は、えだ豆は毛虫でやら



れてしまったけれども、花は私達の協力やきずなが勝つて、きれいにさいたと思います。

私の住んでいる青森県は世界自然いさんに登録された白神山地があります。その自然をこわさないように、これからも、ゴミ拾いや、花などの自然の物を大切にして、地球に優しいことをふやしていきたいと思います。

## 保育士の職場訪問

### 青森県岩木児童センター

小学校5年 平澤 莉緒



私は、ボランティア活動で職場訪問をしました。職場訪問では、保育園の保育士さんのお仕事がどんなお仕事なのかよく分かりました。私が職場訪問に行つて分かったことが2つあります。

1つ目は、保育士さんは子どもを笑顔にしてあげられることです。さくら組で歌を歌っていて泣いていた子どもを聞いて笑顔になりました。おゆうぎ会の練習をしているところをほめて、できるようにやる気を引きだしていたので、保育士さんはすごいなあと思いました。

2つ目は、保育士さんは、子どもによりそつてあげられることです。泣いていた子どもにもやさしく接していて、泣いていた子どもは保育園の先生に困つて話を話し



て、保育園の先生は、困っていたことを解決させるために、何があったのか話を聞いて、すぐに解決していたので、保育園の先生は子どもによりそってあげているのが分かりました。私が小さい時に、行っていた保育園なので、行くときにわくわくしていました。行ったら、子どもを笑顔にしてあげたり、子どもによりそってあげたりしていたので、私も小さい子や低学年に、やさしくよりそってあげようと思いました。

誰かがやるじゃだめ

千葉県栄町立竜角寺台小学校

6年 寺田 健次郎



「ユニセフ募金」

一つの箱がぼくの目にとまった。それは国際連合児童基金という世界中の子どもたちのための募金であった。初めは軽い気持ちで五円から百円程度募金していた。自分のわずかな小銭で何かできるとは思っていなかったからだ。

家に帰り、百円で具体的に何ができるのか気になり調べてみた。できることの一つ目はポリオから子どもを守るための経口ワクチンを五回打つことができることだ。五人の子どもを救えるのだ。二つ目は栄養素ビタミンAのカプセルを購入することだ。このように、



わずかな金額で、救うことができる。そのためにも一人一人の協力が必要になってくる。百円、いや十円でもいいので募金をして、子どもたちの命を救いたい。

「だれかがやればいい。自分は、やらなくていいや。」ではなく、できるだけいいのでみんな命を救うべきだ。ぼくは、今回の募金活動をやる前までは、ユニセフという組織すらまともに分からなかったが、母と世界で学校に行くことができない人たちをテレビで見ている自分のできることを少しでも行おうと思った。

今の自分のように、ごはんを食べることができ、お風呂にも入ることができ、学校に行くことができる。すべてに感謝しながら生活をしていきたい。未来、そして子どもたちのために「人の命を助ける」前向きな気持ちで生活していつてもらいたい。ほかの活動ではぜったいに感ずることができないものだ。これからも募金だけではなく、地域の清そうやごみ拾いなど、地域運動にも参加しようと思う。さまざまな苦しみや悩みを抱えた人々のために、できることを精一杯やりたい。ボランティアはぼくに新たな目的をくれた。

## ボランテニアは無量大

青森県岩木児童センター

小学6年 三上 和真



ボランテニアは無量大だとぼくは思う。簡単に言うると、ボランテニアの種類やボランテニアをする人たちは無量大だと思う。ぼくは家や学校、センターなどでボランテニアをしている。主に先生の手伝いや雪かき、整理整頓や片付けなどなど、自分でもたくさん手を出しているなと自覚している。しかし、四年生五年生のころに比べるとあまりボランテニアをできていない気がするのだ。それは、六年生になると家や学校での勉強や行事などのことが一層いそがしくなり、ボランテニアをする機会が減ってしまったからだ。そして、自分でもわかるほど昔みたいに積極的にボランテニアに取り組んでいない気がしているのだ。



冬の時期になり、最近では雪がたくさん積もってきたから、よく雪かきを手伝っている。雪かきを終わらせて家に入り、お母さんに教えると、優しい声で、

「がんばったね！」

と言ってくれたり、

「毎日毎日おつかれさま。」

と返してくれる。その時ふと、考えがうかんだ。始めに言ったように、ボランテニアは無量大ということ。

例えば、ほんの小さいなことやいつもしていることでも、相手が喜んでくれたり感謝してくれたらそれは、まぎれもないボランテニアなのではないか。確かに、本当にボランテニアといわれていることがボランテニアだと言う人もいるかもしれない。しかし、どんな小さいなことでもボランテニアととらえることで、ボランテニアをしてくれる人は増えてくれると思うのだ。それに、日々の積み重ねが大きなボランテニアへとつながると思っている。そして、ボランテニアをつうじて、人と人との関係が深まればいいとぼくは思っている。

## 【中学生賞】

### ボランティア活動と私の決意

岩手県盛岡市立厨川中学校

2年 河嶋 杏月



私は今、ボランティア委員長を務めています。東日本大震災への支援を始めとする様々な活動に積極的な本校で、ぜひ私も役に立ちたいと思います、立候補しました。

委員会で最も力を入れてきたのが、フィリピン・マニラの里子さんへの支援です。私たちの協力で同世代の仲間たちが勉強できる、そんな絆を感じるボランティア活動が誇りでした。しかも、この活動は生徒の声から始まったのです。三十年程前、火山噴火の被害を知った先輩方がマニラの学生を助けたいと募金を開始。その後、現地の学校を訪問するなど、関係を深めていきました。

しかし、仲介をしてくれていたNPOの解散により、支援の中止が余儀なくされました。本当に残念でしたが、これからの活動をどうしていくか、考えるチャンスにしなければと思いました。

そこでまず、これまでの活動を整理し正しく広めるために、全校朝会でプレゼンテーションを行いました。先輩方の熱い思いや、お金だけではない心のつながりも大事にしてきたことを確認し、その



上で、これからどんな取組をすべきか、全校生徒で考えたいと伝えました。

先生や委員会が決める事は簡単です。しかし、私は生徒から始まったボランティアは、生徒で考えたいと思っています。今、何をすべきかを一人一人が真剣に考えるからこそ本物のボランティアになると思うからです。私達の活動の中心をどうするか、真剣に議論できたらもっと素敵な活動になると思っています。

「誰かのために行動できる厨中生。」私達の合言葉であるこの言葉を大切に自らの意思でよりよい活動を行っていきたいと思います。

ここが私達の新たなスタートです。

## 【高校生賞】

声をかけることの大切さ

東京都立六本木高等学校

3年 西田 暖

私は通学するときに、バスや電車を使っている。片道一時間以上かかるので、席がいていたら座ることが多い。だが、他に席を必要とする人がいたら、私は迷わず声をかけて席を譲るようにしている。

以前バスに乗っていたとき、杖を使っているおばあさんが乗ってきた。私は周りを見たら空いている席がなく、すぐに声をかけて席を譲った。おばあさんは笑顔でありがとうと言っていてとても嬉しい気持ちになった。また電車に乗っていたとき、妊婦さんに席を譲り助かりましたと言われて席を譲って良かったと思った。私は今、席を譲る側だけど、もし何かの事情で席を譲ってもらおう側になったら、感謝をしつかり伝えようとも思えた。

将来、高齢化がより進み席を必要とする人も増えるだろう。ただ席を譲るだけでなく、それは社会で生きていく中で重要な行為だと思う。私は高齢者や障害者の支援に興味があり、今年に介護職員初任者研修を修了した。高齢者の体や心の変化や車いすでの介助方法などを学び、介護者、被介護者どちらの気持ちも理解できるようになった。これは仕事をするときだけでなく、生活する上



でも必要であるので、そのような機会があれば活用し実践していきたいと思う。今後もバスや電車などで困っている方がいたら、積極的に声をかけて、少しでも過ごしやすい空間を作っていきたい。

## 国際的なボランティア

東京都立六本木高等学校

3年 野口 秋波

私は、今まで体験したボランティアは国際的なものが多いです。

例えば、観光客がタクシーを探していたけど見つけれないと話しかけられたので、その場でタクシーを呼んだり、道をきかれたので、目的地まで案内したりしました。こうした国際的なボランティアは、コミュニケーション力や英語力が上がるのでやりがいを感じるし、外国の方は基本的にフレンドリーで、しっかりと感謝を伝えてくれるので、ボランティア活動へのモチベーションが上がります。

私が体験した国際的なボランティアにつながった学習内容は、英語の授業だと思います。外国の方と接する場面では、日本語だけでは難しいため、ある程度の英語力やコミュニケーション力は必須であると感じました。国際的なボランティアは、今後も積極的に行っていきたいと考えてい



ますが、日本の方にも積極的にボランティア活動を行っていききたいです。

そのために、介護を必要とする人に関する知識を増やして行きたいと思っています。介護福祉基礎の授業では、学習テーマ「介護を必要とする人と生活環境」を改めて学び、介護に関する知識を増やすことで、介護を必要とする人にとって安心できる、正しい介護ができるように心がけていききたいです。人種や性別・年齢は関係なくすべての人が支援を受けられて、支援をしやすい環境が当たり前になったら、うれしいです。

## ボランティア活動から得た学び

### 東京都立穂ヶ丘高等学校

4年 高橋 はる

私が高校生活で力を入れて取り組んだボランティアは、学校見学の施設案内のボランティアです。これは主に、入学を考えている中学生の方、その保護者の方を対象とした学校説明会の一環で行われるものです。

このボランティアに参加した理由は、自分の苦手と向き合うためでした。私は、初対面の方とお話することや、その場に応じて臨機応変に対応することが苦手であると感じていました。そのため、始めは苦労することも多く、やはり自



分には向いてはいないのではないかと落ち込むこともありました。しかし、その度に先生方や、同じボランティアの参加者である友人、後輩に手助けをしてもらいながら、だんだん自分の苦手を克服していくことができました。このように、ボランティアを通して、当初の目標であった自分自身の成長はもちろん、周囲の人と協力して物事を取り組むことの重要性を改めて実感することができました。

ボランティアと聞くと敷居が高いと感じてしまう人も多いかと思います。私自身も、実際に取り組む前はなかなかはじめの一步を踏み出すことができませんでした。しかし、ボランティアとは、複数の人と関わり合う中で自分の視野や価値観を広げることができると貴重な体験です。そのため、学校などでボランティアの募集・斡旋などをを行い、学生が積極的にボランティアに取り組むことができる環境を作ることが重要だと考えました。実際に穂ヶ丘高校では、マイレージというボランティアの活動が単位に認定される制度や、地域に密着したボランティアの募集を定期的に行っています。卒業後のボランティア活動への関心・意欲の向上や、社会貢献、地域との交流なども含めて、このような取り組みを広げていくことが大切だと感じました。

令和6年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト(令和7年3月現在)

参加校・団体数63校・7団体

参加児童・生徒数20,318人

No.	県名	取りまとめ団体	FF	学校・団体名	No.	県名	取りまとめ団体	FF	学校・団体名
1	青森県			弘前市岩木児童センター	33	小都市	青少年育成市民会		小都市立味坂小学校
2				弘前市西部児童センター	34				小都市立小郡小学校
3	岩手県			盛岡市立月が丘小学校	35				小都市立御原小学校
4				盛岡市立厨川中学校	36				小都市立立石小学校
5	山形県	山形県青年の家		山形市立第一中学校	37				小都市立三国小学校
6				新庄市立新庄中学校	38				小都市立大原小学校
7				最上郡舟形町立舟形小学校	39				小都市立東野小学校
8				最上郡舟形町立舟形中学校	40				小都市立のぞみが丘小学校
9				YV:「ふなっ子」(舟形町)	41				小都市立宝城中学校
10				最上郡鮭川村立鮭川小学校	42				小都市立大原中学校
11				最上郡鮭川村立鮭川中学校	43				小都市立立石中学校
12				YV:「SAKEKKO」(鮭川村)	44				小都市立小郡中学校
13				山形県立山野辺高等学校	45				小都市立三国中学校
14				YV:「夢値布(ぼけっと)」(大江町)	46			福岡県	
15	埼玉県		行田市立埼玉中学校	47		踊る隣組			
16	千葉県	栄町社会福祉協議会		栄町立安食小学校	48	大牟田市		大牟田市立駿馬小学校	
17				栄町立安食台小学校	49			大牟田市立大牟田中央小学校	
18				栄町立布織小学校	50			大牟田市立大正小学校	
19				栄町立竜角寺台小学校	51			大牟田市立明治小学校	
20				栄町立栄中学校	52			大牟田市立高取小学校	
21	東京都			品川区立往原平塚学園(義務教育学校)	53			大牟田市立三池小学校	
22				品川区立品川学園(義務教育学校)	54			大牟田市立羽山台小学校	
23				杉並区立沓掛小学校	55			大牟田市立銀水小学校	
24				荒川区立第六瑞光小学校	56			大牟田市立上内小学校	
25				足立区立鹿浜第一小学校	57			大牟田市立倉永小学校	
26				小平市立小平第一小学校	58		大牟田市立手織小学校		
27				小平市立小平第五小学校	59		大牟田市立宮原中学校		
28				小平市立小平第五中学校	60	筑紫野市	筑紫野市立二日市小学校		
29		FF	都立六本木高等学校	61	佐賀県	FF	神埼市立神埼小学校		
30		FF	東京都立徳ヶ丘高等学校	62				神埼市立西郷小学校	
31			東京都立赤羽北桜高等学校	63				神埼市立青振小学校	
32			NPO法人日々喜	64				神埼市立千代田西部小学校	
				65				神埼市立千代田中部小学校	
				66				神埼市立千代田東部小学校	
				67				神埼市立仁比山小学校	
				68				神埼市立神崎中学校	
				69				神埼市立青振中学校	
				70				神埼市立千代田中学校	

- ◇取りまとめ団体(教育委員会・団体)  
管轄教育委員会の全小中学校を取りまとめて参加
- ◇都道府県市町村名のみは各校単独申込
- ◇FF(ふれあいボランティアパスポートフレンズ)  
教育委員会や学校・団体が独自に作成したふれあいボランティアパスポートを使用して参加
- ◇YV=やまがたヤングボランティアサークル  
(山形県内の高校生を中心にした児童生徒の地域ボランティアサークル)

令和6年度ふれあいボランティア活動感想文集  
令和7年3月発行

認定NPO法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区天沼3-7-3

荻窪法人会館3階

TEL : 03-6279-9236 FAX : 03-6279-9256

URL : <https://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : [info@ssc-npo.or.jp](mailto:info@ssc-npo.or.jp)